

【日程】

時 間	内 容
13:30～	開 会 行 事 ○ 主催者挨拶 ○ 日程確認、諸連絡
13:35～	事業の概要と本日の会議の持ち方について 主任社会教育主事 草野正夫
14:45～	実 践 発 表 ○ 「子どもの健康・体力向上に向けた取組」 浅川町立浅川幼稚園園長 鈴木文雄 氏 ○ 「福島トヨペットのCSR活動について」 ー地域貢献活動などー 福島トヨペット株式会社本社管理本部人事担当課長 石神倫子 氏 〃 営業本部サービス業務担当係長 二瓶有紀 氏
15:00～	協 議 「課題解決に向けた本地区の取組について」 1 子どもの健康・体力向上に向けた取組 2 メディアコントロールについての取組 3 今年度の成果と課題(次年度に向けて)
16:25～	閉 会 行 事 ○ 御礼のことば ○ 諸連絡

事業の概要と本日の会議の持ち方について

- 「地域でつながる家庭教育応援事業」の全体像について
- 家庭教育支援者全県研修について
 - 日時：平成28年7月2日(土) ○ 会場：国立磐梯青少年交流の家
- 第1回家庭教育推進県中ブロック会議について
 - 日時：平成28年6月23日(木) ○ 会場：郡山市労働福祉会館
 - 会議内容、県中域内の課題に対する取組等
- 「親子の学び応援講座」について
 - 天栄村立牧本小学校 日時：平成28年7月1日(金)
 - 浅川町立浅川幼稚園 日時：平成28年7月13日(水)
 - 田村市立西向小学校 日時：平成28年9月28日(水)
 - ・狭い場所でも、簡単に、誰でもできる体力向上のための取組
 - ・親子の触れ合い、コミュニケーションツールとしての機能
- フォローアップ研修会
 - 日時：平成28年10月28日(金) ○ 会場：コミュタン福島
 - ・県中域内の家庭教育支援者約50名が参加
- 家庭教育応援企業企業推進活動
 - ・144社(45,787名)が登録 (平成28年11月21日現在)
- 家庭教育応援プロジェクト(県中版)
 - ・各地区PTA研究大会で家族、地域、学校でのコミュニケーションを呼びかける

実践発表①

□ 「子どもの健康・体力向上に向けた取組」

発表者 浅川町立浅川幼稚園園長 鈴木文雄 氏



- 浅川町の紹介、浅川幼稚園の概要説明
- 日課表にみる体力向上の取組
 - ・ マラソントime(9:15~9:20)
開始前の健康チェック
5月から10月まで毎日(4月は午前保育のため無し、11月以降は縄跳び)
3分53秒の曲に合わせて、1週65mの園庭を6~7周休まず走る
 - ・ 自由遊び(12:30~13:00)…体力向上に向けた活動の時間として位置付けている
- 集会・体操…エビカニクス体操、フォークダンス(運動会に向けて)
- 幼児期は遊びを通しての指導
 - ・ 日常生活での遊び…ドロケイ遊び、リレー遊び
ドッジボール(投げることができない幼児への対応)
 - ・ 遊具を使った遊び…鉄棒(運動の適時性を配慮)
子どもの発想、考えを生かした遊び
※日常の安全点検が大切
- 子どもたちを健康に導く運動プログラム「ボールゲーム」体験会実施
 - ・ 園児、保護者94名が参加
 - ・ 運動へのきっかけづくりとして次につなげたい
 - ・ コミュニケーションツールとして親子で楽しむことができた
 - ・ 体験会で使ったボールを購入して家庭でも行った保護者もいた
- キビタンといっしょに
 - ・ キビタンといっしょに縄跳び…次のステップへのきっかけづくりとして
- 健康に関する取組
 - ・ 栄養指導の実施…栄養士による指導、親子給食会の実施
 - ・ 手洗い、うがいの励行
- 歯の健康…歯の健康教室実施(健康センター職員による)
- おわりに
 - ・ 心と体のたくましさを身に付けさせたい
 - ・ 様々な体験をさせることで次の運動、活動に向けた意欲を高めていきたい
 - ・ 園児の体力は向上してきている
- 質問・感想等
 - ・ 朝食摂取率調査の内容や回数等について
 - ・ 幼稚園からの体力向上に向け取組の内容がすばらしい

実践発表②

□ 「福島トヨペットのCSR活動について」ー地域貢献活動などー

発表者 福島トヨペット株式会社本社管理本部人事担当課長 石神倫子 氏

〃 営業本部サービス業務担当係長 二瓶有紀 氏

◇ 福島トヨペットの概要説明

1 交通安全教室(月に2回程度)

- 県内の幼稚園・保育所などで交通安全教室を開催…約1時間の内容
 - ・オーディエンス参加型の交通安全啓発コンサート
 - ・ふくしまキッズマンが出演
 - ・オリジナルソング「ぼくらはふくしまキッズマン」「しんごうまもうろZ」等
 - ・大型絵本を使った道路の歩き方クイズ…大型絵本はプレゼント
 - ・反射シールのプレゼント

2 トヨタ原体験プログラム(今年度の希望は終了)

- 小学校4年生向け…クルマ原体験教室(約90分のプログラム)
 - ・クルマのパワーとコントロールを実験、体験
- 小学校5年生向け…クルマまるわかり教室(約140分のプログラム)
 - ・クルマと環境、経済の関わりをゲームで体験

3 自動車工場見学ツアー(大型観光バスで行く、親子ふれあい自動車工場見学ツアー)

- 第1回ツアー
 - ・日時:平成28年8月10日 場所:トヨタ自動車東日本宮城大衡工場
 - ・小学校4~6年の親子20組(先着)をSNSで募集
 - ・第2回目も開催予定

4 職場体験の受け入れ

- クルマの魅力や自動車産業への理解を促進
- 小中学生から高校生・専門学校までの職場体験学習
- 自動車産業や環境問題をテーマにする総合学習

5 その他の活動

- スペシャルオリンピックスへの人的ボランティア支援
- 100万人のクラシックライブ
- TOYOPET GREEN FES
 - ・新舞子海岸沿いにクロマツ植樹
 - ・木エクラフトでプランターづくり
- TOYOPET CUP U10フットサル大会
 - ・平成28年10月より各地区で予選会、12月11日に決勝大会開催予定
- リフレッシュ休暇の導入
 - ・年間5日自由に設定
- 半日有給休暇の導入
 - ・午前、午後、中抜けの3パターン
- 育児休暇、短時間勤務
 - ・男女問わず制度を利用し積極的に育児に参加
- 赤ちゃんホットステーション認定
 - ・キッズコーナー、おむつ替えシート設置



協 議 「課題解決に向けた本地区の取組」

- メディアに対する認識不足によって子どもたちが被害にあっているという状況の中、平成27年度よりメディアコントロールをテーマとし、研修も行ってきた。保護者の認識をどう変えていくか、また保護者が子どもとどう関わって、どう伝えていくかということが28年度の課題だった。また、親子の会話、コミュニケーションをどのようにしていったらよいかという大きなくくりの中で、そのツールとしてスポーツを取り上げ、何力所かで「BALL GAME」に取り組んでもらった。

これらについて、私達がそれぞれの団体でどのように展開し活動してきたか、また今後どう生かそうとしているか発表して頂きたい。

- 本会議では平成27年から家庭教育推進アドバイザーを務めさせていただいている。今、郡山市には平成26年度より始まった事業で公立の28中学校区に地域コーディネーターが置かれている。その人達も家庭教育推進アドバイザー的な役割を担って、子どもたちや保護者の皆さん、一部地域の皆さんと色々な活動をコーディネートしている。

土曜日や長い休み等に集まって自学自習など寺子屋的な活動をしている所が多い。

私が地域コーディネーターをしている小原田地区も平成26年度は同じような活動をしていた。昨年度は学びだけではなく「地元の食」について子どもたちと勉強しながら地元の食を再現し、「小原田の再発見」を行ってきた。様々な機関とリンクして携わる人を多くすることによって、サポートする力も大きくなってきている。小原田の様子を全市に発信する役割にも力を入れて行ってきた。27年度は「体力づくり」を含めた仕掛けを考えた。地元のシニアの皆さんが小原田の歴史再発見に取り組んでいる。旧奥州街道を歩きながら歴史再発見を行っている。来年はこれを子どもたちをいっしょに行っていきたい。寺子屋が学びから始まり食と連動し、次に遊びと連動し体力も向上する。1年ずつ推進していきたい。

- PTAではメディアコントロールのアンケートを実施した。小学校の所持率は半数である。持たせる理由として震災後の連絡手段の確保が多い。家庭でのルールや約束を決めている家庭が多い。メディアコントロールに関することは家庭で工夫できることが多いが、体力向上に向けた取組を家庭の中で行うことは難しい。今年度の「BALL GAME」のような取組は良かったと思う。

- 教育アドバイザー1名には月に何度か、また3名の保護者のアドバイザーには随時来校して頂きアドバイスをもらっている。携帯の使用等についてアンケートをとった。スマホ等は親が寝てから使う傾向があることが分かり、保護者に確認するよう注意を喚起した。小学校でも、「鍵っ子」のため携帯を持たせたいと考える家庭もあるが、学校に持ってきて使わないというルールを作っている。体力作りの取組として、学校では昼休みに校庭で走るなど対策をしている。次年度は帰宅後の子どもたちの生活時間（時間割）について取り組んでいきたい。

- 健康・体力向上に向けて学校では、朝マラソンを行っている。高学年になるほど好き嫌いが大きくなっている。メディアコントロールについてはノーメディアデーを設定している。SNS関連の使用については一方的に禁止するのではなく、子どもとのコミュニケーションを大切にして子どもに歩み寄ることの大事さを学んだ。

学校以外のクラブに所属している子どもと、所属していない子どもとの体力差が大きい。今年度行ったボールゲームのような、いつでもどこでも取り組めるようなものを取り入れることで、その差が解消できるとよいと思っている。SNS等については、日々進化しているので、親も内容を理解して子どもに与えるようにしなければならない。

- 親の知識が足りないからメディアに踊らされているという現状が一番問題であると考ええる。親が興味を持ち続けるようにしていくことが我々の役割の一つと考えている。メディアの伝え方について、携帯やネットでは接続回数が多い順に表示されている。それが正しいものかどうかは親も子どもも分からない。中立的で良い情報は探さないと出てこない。この現状に対応出来るようにしていくことが大切である。

体力面について、安全面の配慮から親が送り迎えをするなど、子どもが歩かないという状況が進んでいる。マラソンの日や朝読書などを取り入れて、メリハリのある学校生活の中で知識や体力が向上している学校が増えている。学校保健委員会の中で、家族の中で両親と祖父母の育て方に違いがあるという報告があり、家庭が頑張らなければならないということを感じた。

- 放課後子ども教室では、イベントにスポーツを取り入れるようにしている。チーム編成をして対抗戦のような活動をしている。

メディアコントロールに関しては、就学時健康診断に伴う話し合いの中で保護者から子どもに携帯を持たせますかという質問があった。親としては携帯の所持は安否確認が第一と考えているようである。携帯の所持については学校と連絡をとることをアドバイスした。一方で家庭の中で子どもがパソコン等の使用をどのあたりまで出来るのか把握していないように感じられた。幼稚園児でもパソコンを動かして見ているという事例もある。これは家庭の中で保護者がコントロールするしかない。

親子の繋がりがうまくいっていない家庭が多いと感じる。コミュニケーション不足の家庭が多い。いかにして家庭の教育力を高められるか、子育てと同時に親育てが課題である。

- 11月12日に家庭教育研究会があり方部ごとの取組等を発表した。ブロック会議の内容についても最初の3月の総会時に報告した。

保育園に携わっている会員から、幼児を持つ保護者から外遊びはあまりさせていないが、野菜や芋類を育てて収穫したり調理して食べさせたりしているという話があった。

午後の研修では今年度参加した「BALL GAME」の内容をボールを購入して実践してみた。メディアに関する認識は私達自身も浅い。勉強をしなくてはならない。親子の話し合い、家庭の中での取組が大切である。

- 被害防止と加害者にならないということで子どもたちに啓発活動を行っている。

(10月末までの郡山警察署管内の状況説明)

携帯、スマホ、メディアに対する取組については学校の要請に応じて、話をさせて頂いている。使い方を誤ってしまうことで、被害者になったり、あるいは加害者になってしまうということを伝えていきたいと考えている。具体的な事例として、LINEを介して知り合った兵庫県の高校生が郡山まで会いに来て補導した事もあった。また女性になりすました男性に裸の写真を送ったあと連絡が取れないといった、なりすまし被害もあった。

正しく使えば便利なものである。家庭の中で話し合っって持つのであれば約束を作ることが大切である。

スマホに関わる進歩は早い。子どもたちといっしょに学ぶということということで事件事故も絶無に向けて取り組んでいきたい。

- 子どもたちの遊びについてアンケートを行ったところ、遊びの種類は圧倒的にゲームが多かった。またゲームで遊んでいるので一人で遊ぶと答える子が多かった。また、小学生の遊びの時間は、平日80分（うち30分が外遊び）で、休日は3時間20分（うち外遊びが80分）であった。遊ぶ場所は、8割が家の中と答えている。

体力づくりとコミュニケーションづくりということで、遊ぶ場を提供しようと活動している。大学の先生のアドバイスを受けて、プレイパーク作りを進めている。7月と8月に試験的にプレイパークもどき外遊びを行った。遊びが子どもたちの自発的な活動を促したり親子の関わりを深めたりすることにつながり、遊びをもっともっと大切にしていこうということになった。そのことによってメディアから離れていくのではないかと期待している。場所の提供はできたので、今後遊びのリーダーをどのように育成をしていくかということが課題であると考えている。今後平成30年の複合福祉センター開設に向けて活動を積み重ねていきたい。

- 郡山市の18方部に67名の主任児童委員いて。片平方部を担当している。

主な活動内容として子ども育成会の皆さんとの共催で年2回(秋1回とクリスマスに1回)お楽しみ会を実施している。秋のお楽しみ会は、もともと「こども神輿」の活動だった。震災後、放射線の問題もあり行われていなくなることが一つの課題となっている。実行委員会を立ち上げて次年度からの復活に向けて取り組んでいきたい。

児童クラブは今年で2年目になる。今年の秋から体育館の利用が出来るようになり、子どもたちの体力向上に向けて、子どもたちが十分に体を動かすことが出来るようになった。

- 子どもの健康・体力向上に向けた取組ということにかかわって、スポーツ少年団ではスポーツテストを実施している。スポーツをやっている子とやっていない子の体力差は大きい。あわせて食の大切さについても話をしている。

メディアに関しては大人が口を酸っぱくして話していく必要がある。

- 子ども育成会として、必要性は感じるが勉強会のようなものを実施できていないのが現状である。前回も話したが、運転免許と同じようにメディアに関して免許制にしていく必要があるのではないか。県中地区なら県中地区で勉強会を開いて簡単な決まりのようなもの、ルールをつくる必要があると思っている。

子ども育成会として、開成山で行う子ども祭りの手作りおもちゃコーナーでの活動や、昨年度からネイチャーフェスティバルを行っている。また2月には子ども会議を行っている。

- 実践発表を頂いた方からご意見を頂きたい。

- 色々なジレンマの中で、教育の現場では、どこに発信していけばいいのか、どこと繋がっていけばいいのかという課題があると感じている。このような機会があって、様々な組織が一体となって連携を図っていくことが大切であると感じた。

- 二児の母という立場でこの会に参加できてよかった。メディアに関してどのように子どもと関わっていけばいいのか分からないという部分もある。この会の成果を多くの保護者の方に発信し、親の考えを変えるようにして頂きたい。私達が取り組んでいる事業についても、もっともっと情報を発信していきたい。

- 大人の在り方、姿勢が大きく影響している。私たちは地域や置かれている立場などそれぞれの視点で連携を図っていくことやネットワークをつくっていくこと、小さな答えを積み重ねていくことが大切である。これらの視点を踏まえ事務局に次年度以降の方向性を検討していただきたい。